

まちの話題



筑豊高校「観光ガイドボランティア」で全国金賞 家庭科技術検定 4冠王で日本一

筑豊高校総合ビジネス科・生活デザイン科の生徒が、全国高校生体験活動顕彰制度「地域探求プログラム」全国ステージ金賞と、全国高等学校家庭科技術検定4冠王表彰で日本一となったことを報告に、市長を訪問しました。

「地域探求プログラム」は地域が抱える課題を見つけ出し、地域と連携し解決に取り組むことを目的しており、総合ビジネス科の小今井祐翔さんと階藤千朋さんは「地域創生」をテーマに、直方市の観光ボランティアとして活動し、その体験をまとめた発表で金賞を受賞しました。小今井さんは「直方のことが好きで、市の良いところをみんなに知ってもらいたいと思い活動した。地域とともに活動することの大切さを学んだ」と話しました。

家庭科技術検定は、食物調理、被服製作（洋服・和服）、保育技術の全4部門で1級に合格すると「4冠王」となります。令和3年度の4冠王は全国で65人達成し、そのうち11人が同校の生徒で、学校別で日本一となりました。池田早希さんは「進学する際の学校パンフレットで4冠王を知り、目標としてきた。苦手分野にくじけそうなこともあったが、みんなで教えあい乗り越えられた」と嬉しそうに語りました。令和2年度は全国2位だった同校。日本一を目指し、みんなで支え合いながら達成し、仲間との絆が深まったようです。



向野堅一記念館より 山頭火句碑を寄贈

3月29日、直方新町北公園で種田山頭火句碑の除幕式がありました。句碑には「あんまりうつくしい チューリップ 枯れた」という句が刻まれています。これは山頭火が90年前の昭和7年4月25日から27日に直方に滞在したときに詠んだ句です。季語や字数にこだわらない自由律の俳人であった山頭火の詠んだ句について、句碑の建立に尽力された西尾昭二さんは「やがては枯れる人生の日々から生まれた」と話しました。

この日は公園内の桜も満開で、句碑と桜にちなんだ句も献句されました。また、句碑の寄贈を受け、市長は「歴史と文化は時間をかけて発展していくもの。俳句文化の盛んな地であり、市民にとっても大きな財産になる」と語りました。



市内高齢者入所施設へ アルコール消毒用足踏みスタンドを寄贈

昨年10月、市役所にアルコール消毒用足踏みスタンドを寄贈した株式会社田中鉄工所が、「ものづくり企業として地元にも更なる貢献を」との思いから、同型のスタンドを追加で作成し、市内の高齢者入所施設へ寄贈しました。

3月16日、社長の田淵元悟さんとスタンド開発に携わった社員の西本俊一さんが、頓野の介護施設「すこやか」を訪れ、最初の1台を納品しました。受け取った同施設の早柏事務課長は「これから面会家族などの来館者が増え、日頃からの感染防止策をより強化する必要がある中、大変ありがたい」と謝意を述べました。

今回の寄贈は32施設が希望し、3月中旬に順次納品され、施設職員から「設置が簡単」「軽いので持ち運びに便利」などの声があがっていました。なお、同社は、市内の金融機関窓口や商工会議所などにも同型のスタンドを寄贈されたそうです。



市のホームページでは、
この他の話題も公開しています。



資源をつなぐ

ecoぴっと24

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

【問い合わせ】循環社会推進課 資源循環係 TEL 26-3216



5月9日(月)正午オープン

直方市とFKエコロジー株式会社（福岡金属興業株式会社）は、官民共同事業の先駆けとして、中央公民館に、「ecoぴっと24」をオープンし、資源回収の実証実験をおこないます。

写真：ecoぴっと24 八幡野面店

持ち込むことができる品物

新聞・雑誌、ダンボール、小型家電、携帯電話、
金属・スチール缶、アルミ缶

「ecoぴっと24」とは？

古紙や金属製品、小型の家電製品などの資源物を持ち込める無人リサイクルシステムです。

利用可能時間：午前9時から午後5時まで
中央公民館・男女共同参画センター利用で開館している時間帯は持ち込み可能です。

誰でも簡単に
その場で
会員登録できます！

お持ち込みの資源により
「ecoぴっとポイント」が
貯まります。

貯まったポイントは
「nanacoギフトカード」に
交換可能です。

サステナブルな暮らし、 私たちが今すぐ始められること

サステナブル(Sustainability)は「持続可能な」という意味です。
SDGsが日本でも注目されるようになり、
私たち一人一人にも身近な存在として認識されるようになりました。

\\ まずは、できることから //

ゴミを
減らそう

エコバッグを
使おう

買ったものは
使ってしまう

リサイクルを
徹底しよう

ゴミを減らす、必要な分だけ買う・使うなど、
意識するのがサステナブルな暮らしの第一歩。
家庭から、そして地域からできることから始めていきましょう。



RECYCLE

リサイクル
使ったものを資源
として再利用する

REDUCE

リデュース
ごみを出さない
ようにする

REUSE

リユース
繰り返し使う